

言葉の魔法

ちょっとした一言が人を変える力を持つことがある。
迷ったときの道標になる言葉、
ふと思い出して元気になれる言葉……。
確かな成果を残したビジネスパーソンたちに、
そんな言葉の魔法を聞いてみよう。

“俺と関わるヤツは、運がいいんだよ”

私が高校生の頃だったでしょうか。マガジンハウスの創業者でもあった祖父が、誰かからの葉書を見ながら言った言葉です。ちょっと傲慢に聞こえますが、「関わる人すべてを花開かせたい」という祖父なりの表現であることは、当時もなんとなくわかりました。でも今、自分が編集長になってみて、あらためて身にしみる言葉です。

編集長は指揮者に似ています。演奏者各々の欠点を指摘してもいい演奏にはならない。それよりいかに個性を引き出し、生かすかです。だから、自分といっしょに仕事をしたことがきっかけでデザイナーやカメラマンの方がブレイクしたり、取材したショップが世の中で話題になるのはすごくうれしいんです。そういうことを何度も見てきて、様々ないいところを見出し大きなムーブメントへとつなげていくのが、雑誌編集なのだと思うようになりました。

それは雑誌そのものに対しても同じ。今は出版不況と言われていますが、雑誌が好きで入社した自分たちが、ネットなど他にはない雑誌ならではの良さを引き出せないでどうする、と思うんです。『Hanako』という雑誌も、かつてあれほどブームになったのは、その時代の女性が楽しいと感じる情報とその見せ方をつかめたから。そうした『Hanako』のいいところと、雑誌ならではのページをめくる流れ、写真と文字のリズムを見つめなおしたのが2008年のリニューアルでした。

人でも雑誌でも、いいところを引き出すには、いいところを見ようとし、そこを愛しむことだと思います。今この人は楽しんでいるか、充実しているか、ということに目を配っていると、いいところはさらに伸びていく気がするんです。素敵なパワーが次々と開花していく。職場がそんな運氣の上がる場所に感じられたら、みんな、楽しいですね。そんな編集部にしたい……。祖父の言葉と同じことを、まさに今思っています。



雑誌『Hanako』の発行部数を
2倍に伸ばした編集長

北脇朝子氏

マガジンハウス 『Hanako』編集長

Asako Kitawaki_親族の入社を禁じた祖父の方針により、メーカー勤務、フリーライターを経て、祖父退陣後の1995年同社に入社。関西支社にて『Hanako WEST』の編集に携わり、2005年から同誌編集長。08年7月、東京勤務となり『Hanako』編集長に就任。同時に行ったりリニューアルで発行部数を2倍に伸ばし、雑誌不況の今日、注目を集める存在となる。09年秋には男性向けのムック『Hanako FOR MEN』を刊行するなど挑戦を続ける。